

## 平成 27 年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

### 1. はじめに

平成 29 年 4 月に新しい専門医制度がスタートする予定である。しかし、医師の地域偏在への懸念や勤務医の偏在の安定化や待遇が不透明との意見等が日医を始め各方面から出され、ここに来て制度の延期を求める声が相次いでいる。新制度の発足が、混迷を極める中、勤務医には、ほかにも医療安全対策、過重労働、研修医の指導や自らの生涯教育のあり方など、自身を取り巻く問題が多岐に渡っている。いずれの問題もこのままでは放置できない状況となってきたが、勤務医部会としては、このような状況にも対応できるよう、勤務医部会幹事会を活動拠点として、種々の問題解決に向け取り組んでいるほか、女性医師の抱える勤務環境の問題を専門に協議する場として、女性医師ワーキンググループを設け、活動している。しかし、女性医師の比率が益々高まる中、将来に向けて協議をより活性化させる必要があることから、WGのあり方を大幅に見直し、26 番目の常任委員会として新たに「女性医師委員会(仮称)」を設置することとなり、28 年度より始動する。

### 2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来 31 年を迎えた。部会員数、即ち、B・C 会員数は、平成 28 年 1 月 1 日現在、1,713 名で昨年より 29 名の増となり、京都府医師会総会員中、41.3%を勤務医部会員が占めている。ただ、これは全国平均の 51.2% (27 年 11 月現在での日医集計による) と比べて低い状況にあり、京都府内に従事する勤務医の約 3 分の 2 が医師会に未加入であることを考えると、依然、組織率が低迷していると言わざるを得ない。

過去 5 年間の勤務医部会員数の推移

年	勤務医部会員数	京都府医師会総会員数	割合
平成 28 年	1,713 名	4,148 名	41.3%
平成 27 年	1,684 名	4,120 名	40.9%
平成 26 年	1,692 名	4,125 名	41.0%
平成 25 年	1,707 名	4,154 名	41.1%
平成 24 年	1,735 名	4,204 名	41.3%

※基準日：1 月 1 日現在

### 3. 部会役員に関する件

森勤務医部会長ののもと、幹事長に鴻巣寛氏、副幹事長には安田健治朗氏、若園吉裕氏、吉田憲正氏、紀田康雄氏にご就任いただいた。今期の役員は以下のとおり。なお、任期は府医役員に準じ平成 29 年 6 月定時代議員会まで。

役職	氏名	医療機関	備考
部会長	森 洋一	森小児科医院	
幹事長	鴻巣 寛	綾部市立病院	
副幹事長	安田 健治朗	京都第二赤十字病院	
〃	吉田 憲正	京都第一赤十字病院	
〃	若園 吉裕	京都桂病院	
〃	紀田 康雄	第二岡本総合病院	
幹事	柴 禄郎	京都鞍馬口医療センター	
〃	八田 陽一郎	京都第二赤十字病院	
〃	衛藤 美穂	京都第二赤十字病院	
〃	相良 幸彦	堀川病院	
〃	小暮 彰典	京都市立病院	
〃	吉波 尚美	京都市立病院	

//	二宮 清	洛和会丸太町病院	~H28.2.18
//	清水 聡	新京都南病院	
//	高橋 周史	武田病院	
//	大越 香江	日本バプテスト病院	
//	谷川 徹	北山病院	
//	森村 達夫	宇多野病院	
//	松井 淑江	京都桂病院	
//	水野 雅博	三菱京都病院	
//	巨島 文子	京都第一赤十字病院	
//	兼子 裕人	愛生会山科病院	
//	土谷 美知子	洛和会音羽病院	
//	徳永 千恵美	洛和会音羽病院	
//	橋本 哲男	医仁会武田総合病院	
//	瀬田 公一	京都医療センター	
//	高尾 由美	京都医療センター	
//	中嶋 俊彰	済生会京都府病院	
//	小屋 美津彦	宇治武田病院	
//	中田 雅支	京都山城総合医療センター	
//	天池 寿	亀岡市立病院	
//	辰巳 哲也	公立南丹病院	
//	川上 定男	市立福知山市民病院	
//	富士原 正人	京都ルネス病院	
//	竹内 一雄	舞鶴共済病院	
//	北森 伴人	舞鶴医療センター	
//	中川 正法	京都府立医科大学附属北部医療センター	
//	坂井 義治	京都大学医学部附属病院	
//	横出 正之	京都大学医学部附属病院	
//	松村 由美	京都大学医学部附属病院	
//	藤原 斉	京都府立医科大学附属病院	
//	中西 正芳	京都府立医科大学附属病院	
//	外園 千恵	京都府立医科大学附属病院	

#### 4. 幹事会・正副幹事長会の開催

27年度は2回の幹事会と5回の正副幹事長会を開催し、B会員の加入促進対策、総会の運営等について協議した。

開催日	会合名	協議事項
27. 5. 21	前期正副幹事長会	次期、勤務医部会への引き継ぎ事項について
27. 7. 23	正副幹事長会	(1) 勤務医部会総会の開催について (2) 府医各種委員会への委員の選出 (3) 医師会加入促進に係る勤務医対策について (4) 女性医師ワーキンググループにおける取り組みについて (5) 平成27年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の開催について (6) 次回開催について
27. 8. 20	正副幹事長会	(1) 勤務医部会総会について (2) 第6回医学生・研修医をサポートする会について (3) 勤務医のB会員加入促進について (4) 女性医師等就労支援対策 (5) 次回開催について

27. 12. 3	正副幹事長会	(1)第6回医学生・研修医をサポートする会について (2)平成27年度勤務医部会総会について (3)勤務医のB会員加入促進の具体的な対応について (4)女性医師ワーキンググループ改革案について (5)次回開催について
28. 1. 21	正副幹事長会	平成27年度勤務医部会総会について
27. 9. 26	幹事会	(1)平成27年度勤務医部会事業計画について (2)各種委員会への委員の選出について (3)京都医報『勤務医通信』の執筆依頼について (4)平成27年度勤務医部会総会の開催について (5)第6回「医学生・研修医をサポートする会」の開催について (6)フリーディスカッション (7)次回開催について
27. 12. 19	幹事会	(1)若手医療ビジョン委員会委員への選出について (2)平成27年度勤務医部会総会について (3)女性医師ワーキンググループ改革案について (4)勤務医のB会員加入促進の具体的な対応について

## 5. 女性医師ワーキンググループの開催

勤務医部会では、女性医師支援策の具体的な検討を進めるために、女性勤務医11名を幹事として委嘱し、女性医師WGを設置し、今年度は2回開催した。

開催日	会合名	協議事項
27. 9. 26	女性医師WG	(1)京都府：女性医師等就労支援事業について (2)第6回「医学生・研修医をサポートする会」の開催について (3)府医ホームページ「子育て医師支援情報」について (4)次回開催について
27. 12. 19	女性医師WG	女性医師ワーキンググループの改革について

## 6. 第6回医学生・研修医をサポートする会「医師のワークライフバランスを探究する！」の開催

女性医師に対しどのようなサポートを行うべきか、また女性医師が希望をもって働き続けられるような支援をいかに行うべきかを考える一助とすべく、日本医師会等と共催で下記のとおり講演会を開催した。

平成27年度 第6回医学生・研修医をサポートする会「医師のワークライフバランスを探究する！」

と き 平成28年1月30日（土）午後2時～5時30分

と ころ ホテルブライTONシティ京都山科

講 演 「キャリアプランと働きたい人に必要なサポート」

京都大学医学部附属病院病理診断科 准教授 南口 早智子 氏

パネルディスカッション

「アメリカで見た Work-life balance の現実」

京都大学医学部附属病院糖尿病・内分泌・栄養内科

／総合臨床教育・研修センター 助教 井上 真由美 氏

「当院での育児サポートの実際～便利なサポートとは～」

洛和会音羽病院 心臓内科 医長 福山 香詠 氏

「女性が仕事を続けていく上での様々な変曲点」

遠隔画像診断イメージ・コミュニケーション株式会社 診断部長 奥山 智緒 氏

「管理者・男性の立場から」

京都桂病院 院長補佐 若園 吉裕 氏

共 催 京都府医師会、日本医師会、京都大学大学院医学研究科、京都大学医学部附属病院

京都府立医科大学、京都府立医科大学附属病院、京都府地域医療支援センター (KMCC)

出 席=41 名

## 7. 府医各種委員会委員等への推薦

今期、勤務医部会から府医各種委員会の委員として下記3委員会に3名の幹事を推薦し、各委員会にて勤務医の意見が反映されるよう意見具申していただいた。

◆医業経済・融資幹旋委員会 紀田 康雄 副幹事長

◆情報・企画広報委員会 巨島 文子 幹事

◆学術・生涯教育委員会 瀬田 公一 幹事

また、勤務医部会員数が府医会員総数の40%以上を占める中で、府医代議員101名中、勤務医の代議員数は8名、京大および府立医大の計3名を加えても計11名と、その比率は0.6%であり、勤務医の意見が府医の会務執行に届きにくい状況といえ、この点は今後の課題と言える。

## 8. 京都府医師会への入会促進

京都府医師会入会促進事業の一環として、勤務医向けの入会パンフレットを作成し、各方面で配付した。また、28年度より開始予定の初期研修医の医師会費無料化に向けて現在準備を進めている。

## 9. 乳がん検診などへの出務医師の派遣

地域医療活動として、京都府医師会乳がん検診委員会と調整の上、出務医師の派遣を行っており、今年度は京都市内(2地区)において勤務医を派遣した。

## 10. 第40回京都医学会への演題発表

平成27年10月4日(日)に開催された第41回京都医学会では勤務医から78題ものポスター・口演演題発表があり、医学会を盛り上げた。

## 11. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として掲載した。

## 12. 全国医師会勤務医部会連絡協議会への参加

平成27年10月24日(土)、秋田県秋田市で開催された平成27年度全国医師会勤務医部会連絡協議会(秋田県医師会主管)に鴻巣幹事長、若園副幹事長および上田府医理事、事務局が参加した。協議会はメインテーマを「日本の国情からみた理想的な勤務医とその将来像—地域医療充実へのロードマップ」とし、医師会組織強化ならびに地域医療体制の充実にあたっては、学生時代からの教育を充実させることが、理想的な勤務医を増やし、ひいては医療提供体制の充実にも繋がるとする展望が示され、フロアからの質疑応答も含めて、活発な議論がなされた。なお、協議会当日には下記の「秋田宣言」が提案された。

## 秋田宣言

医療崩壊が叫ばれて久しいが、勤務医をめぐる諸問題がその要因になっていることが広く社会に認められるようになった。医療崩壊をくい止め、地域医療を充実させ、住民が安心して暮らせる社会をつくるには勤務医問題の解決が不可欠である。そのためには何よりも勤務医が果たす役割が重要で、勤務医の積極的大同団結がまず必要である。日本における最大の医師組織である日本医師会がその中心的役割を担うのは必然であり、より一層の組織強化が求められる。

また、現代の医療においては、よりよい勤務環境を構築する上でも、多職種との連携によるチーム医療の推進がより一層求められる。

医学においては新たな知見が日々加わり、医師に求められる知識、技術は広く高度になる一方である。医師は常にその修得に努めなければならず、そのためには充実した卒前・卒後教育が重要である。そして、われわれ勤務医は、自己の研鑽とともに、後進の指導にも努めなければならない。

われわれは、理想的な勤務医であることを目指し、地域医療を充実させる使命を果たすことを誓い、次のとおり宣言する。

- 一、 われわれは、勤務医の不足・偏在、労働環境の改善を図るための施策を行うことを国に求める。
- 一、 われわれは、勤務医問題を解決するため、団結して行動する。
- 一、 われわれは、多職種との連携によるチーム医療を推進する。
- 一、 われわれは、卒前・卒後教育を充実したものとし、自己の研鑽と後進の指導に努める。

平成 27 年 10 月 24 日

全国医師会勤務医部会連絡協議会・秋田